

令和4年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市の結果分析と
学力保障に向けての取組～

1.実施

令和4年4月19日（火）

小学校・義務教育学校前期課程の6年生 459名

中学校の3年生・義務教育学校後期課程の9年生 449名

2.調査問題の特徴

平成31年度（令和元年度）から知識と活用を一体的に問う問題が実施されている。令和4年度は国語、算数・数学に加え、理科が実施された（理科はほぼ3年に1度の実施）。

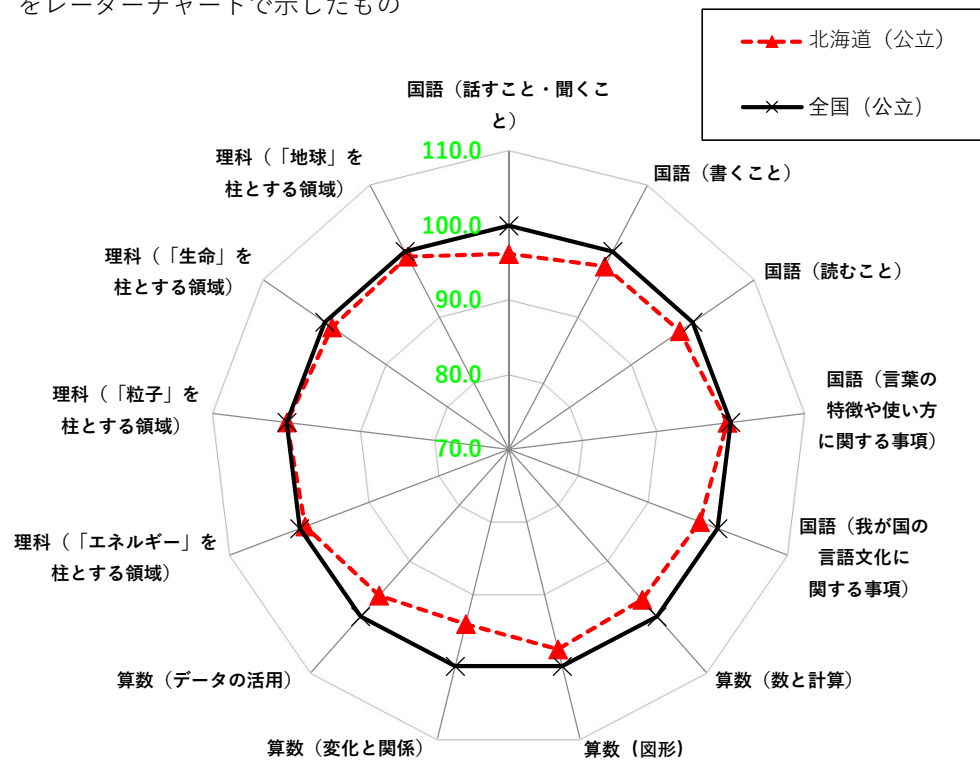
小学校算数では、初めて「プログラミング」に関する問題が出題された。また、児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査においては、ICT機器の活用頻度や場面に関して質問された。

小6の平均正答率

※北海道の数値表記に準じて小数まで表している

R4年度	国語	算数	理科
石狩市	非公開		
札幌市を除く石狩管内 (石狩市との差)	64.7	60.4	63.6
全道 (石狩市との差)	非公開		
全道	64.4	61.1	62.9
全国 (石狩市との差) 【前回・石狩市との差】	非公開		
全国	65.6	63.2	63.3

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの



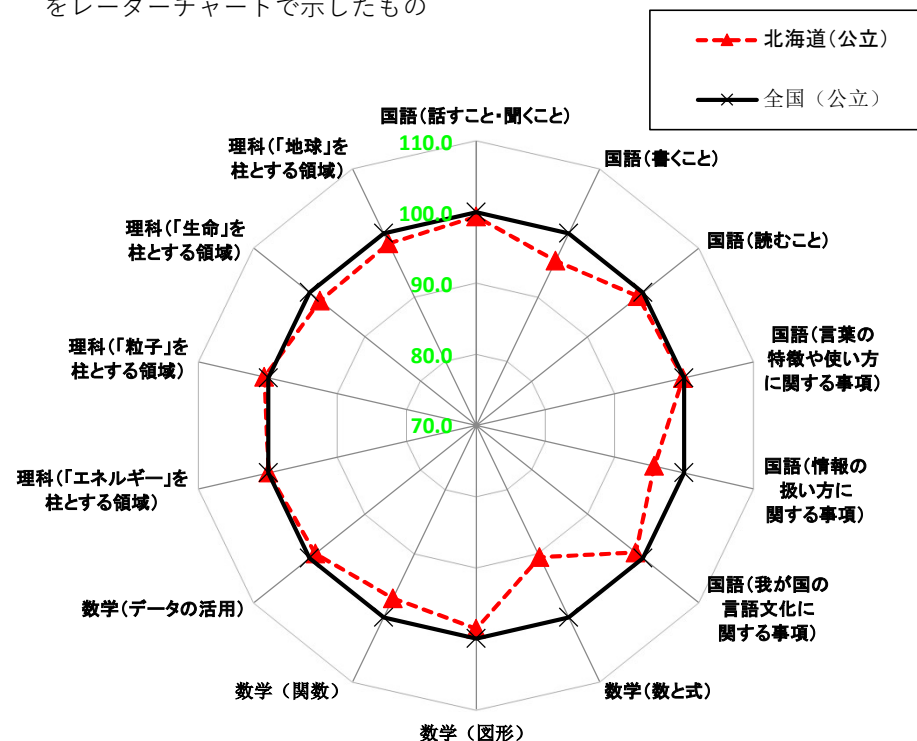
【報告書P1, 5~13】

中3の平均正答率

※北海道の数値表記に準じて小数まで表している

R4年度	国語	数学	理科
石狩市	非公開		
札幌市を除く石狩管内 (石狩市との差)	66.3	47.6	48.2
全道 (石狩市との差)	非公開		
全道	68.6	48.9	49.0
全国 (石狩市との差) 【前回・石狩市との差】	非公開		
全国	69.0	51.4	49.3

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを



【報告書P1, 14~23】

全国学力・学習状況調査における石狩市の経年変化（H29～）

石狩市小学校

①全国学力・学習状況調査全国比(グラフは差)

全国との比較(差)

非公開

全国学力・学習状況調査における石狩市の経年変化（H29～）

石狩市中学校

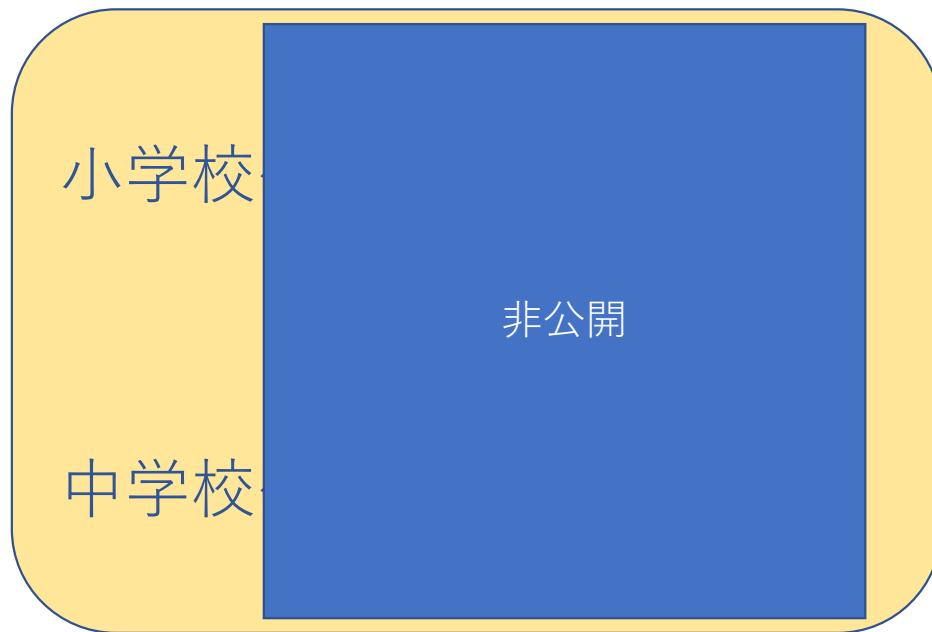
①全国学力・学習状況調査全国比(グラフは差)

全国との比較(差)

非公開

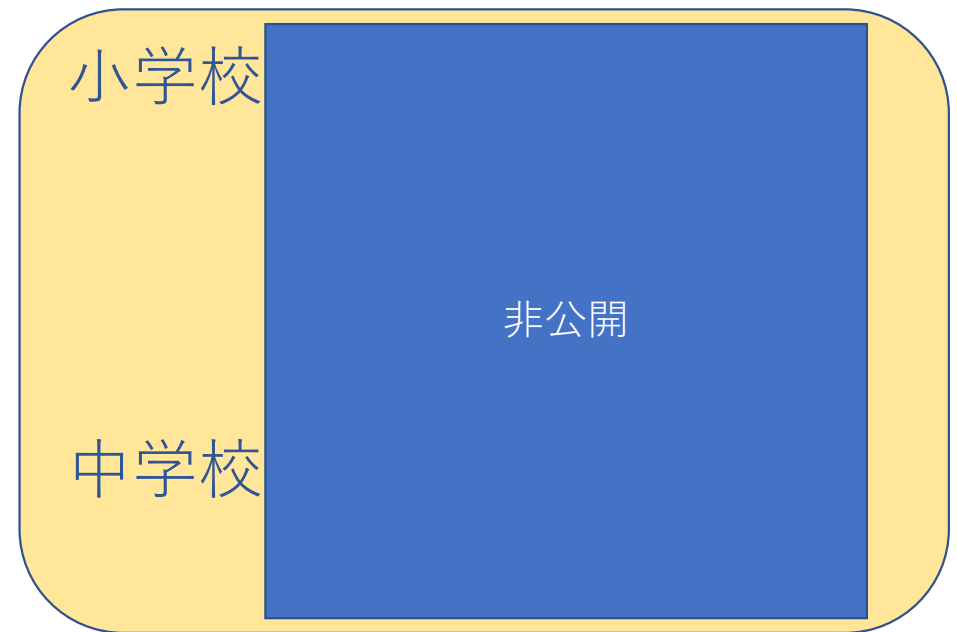
昨年度と比べ全国平均の差を縮めた学校
(2教科平均)

小学校4校 中学校1校



今年度、全国平均を上回った学校
(2教科平均)

小学校4校 中学校2校



全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果から

教科に関して

記号の意味：○全国平均を上回る ≡全国平均同様 ▲全国平均を下回る

小学校

〔国語〕

- 国語の勉強は大切だと思いますか。
- 解答を文章を書く問題を最後まで努力した。
- ▲国語の勉強は好きですか。
- ▲国語の授業はよくわかりますか。

〔算数〕

- 算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。
- 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか。
- ▲算数の勉強は好きですか。
- ▲算数の授業はよくわかりますか。

中学校

〔国語〕

- ≡国語の勉強は大切だと思いますか。
- ▲解答を文章を書く問題を最後まで努力した。
- ▲国語の勉強は好きですか。
- ▲国語の授業はよくわかりますか。

〔数学〕

- ▲数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。
- ≡数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか。
- 数学の勉強は好きですか。
- 数学の授業はよくわかりますか。

【報告書P5～23】

全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果から

記号の意味：○全国平均を上回る ▲全国平均を下回る

○1. 自己肯定感・有用感は、小学生・中学生ともに上昇傾向（P24）

○2. いじめに対する意識は高い（P26）

▲3. 朝食摂取習慣は全道・全国を下回る傾向で改善が求められる継続課題
(P27)

▲4. 平日4時間以上テレビゲームする小中学生はともに約3割で全道・全国を上回る。SNSや動画視聴は小中学生とも全道・全国を上回る（P28・29）

▲5. 平日、家庭学習を1時間以上する小学生の割合は全道・全国を上回り、中学生は全道・全国を下回る（P30）

全国学力・学習状況調査における学校質問紙の結果から

記号の意味：○全国平均を上回る ▲全国平均を下回る

- 1. おおむね落ち着いた学習態度であるが、児童・生徒のよい点や可能性を評価（褒めるなど）や自己肯定感・自己有用感を育成する指導等の継続が大切（P39）
- 2. 「主体的・対話的で深い学び」「子ども主体の学び」の視点から、さらなる授業改善、授業改革が必要（P41～44）
- 3. 1人1台端末等のICT機器の使用は、小学校・中学校ともに積極的に活用。その効果的活用に向け、さらなる研修の充実が大切（P44・45）
- ▲4. 地域の人材活用や小中間の連携教育は、小学校でやや停滞傾向が見られ、中学校校においては進展傾向が見られる（P45）
- ▲5. コミュニティスクール制度の活用や幼保を含めた小中連携の取組が肝要は定着（P46）

学力保障に向けた方策～メタ認知を促す授業改革

1. 「知識・技能」を定着させる「わかる・できる授業」の徹底

- ① 1 単位時間の授業の中で、振り返り・適用問題による習熟場面の確保
- ② 全員が「わかる・できる」を実感させる働きかけ（確認する・ほめるなど）
- ③ 「伸びしろ層・中間層・上位層」の学力保障に向けた少人数習熟度別指導の充実

2. 「対話を重視した授業」のスタイルへの授業改善

- ① 「思考・判断・表現」する力をアウトプット（発信）させる授業づくり
- ② 一人一台端末を活用した「協働的な学び」の場面を確保
- ③ 筋道を立てて自分の考えを書いたり、発表したり、話し合ったりする学習スタイルの構築

3. 国語科「読むこと」領域における読解力の向上

- ① 単元の指導計画に、目的を明確にした「言語活動」の適切な設定
- ② 読解したことをもとに「書く、発表する、作品に残すなど」のアウトプット（発信）

【報告書P3】

学力保障に向けた方策～長期記憶を促す取組

4. 学校の方針・取組に基づいた朝学習・家庭学習の充実

- ①結果分析からの「取組内容」や「時間設定」点検評価の見直し
- ②AIドリル等を活用した既習事項の確実な定着
- ③「チャレンジテスト」「過去問題」等の有効活用や繰り返し活用

学力保障に向けた方策～生活習慣改善に向けた取組

5. 読書活動の工夫，読書環境の充実

6. スクリーンタイムの適正化と家庭学習の習慣化に向けた根強い指導と啓発

【報告書P3】

市教委として

だれが

次 長
学校教育主事
学校教育課
社会教育課

どんなこと

1. 課題と取組の明確化・共有化
2. 学校改善・授業改善の促進
3. 学力保障に向けた**人的・物的支援**
4. スクリーンタイムの適正化、
家庭学習の習慣化に向けた根
気強い啓発

どこで

- 学校訪問
- 校長会議・教頭会議
- 研修会

ウインターセミナー

- ① **学習指導を充実させる
ICTの効果的な活用法**
- ② **国語科・読解力向上を
図る言語活動を充実さ
せるの実践**
- ③ **学力保障のメカニズム
と学校としての取組**